

畜産新規参入促進事業費

予算要求額 20,000千円
〔財源：全額重点〕

1 現状と課題

(1) 現状

- 畜産農家の離農が進展する一方、新規就農は低調
(畜産経営体数H12→R6：419→143、離就農R2→R6：離農15、就農3)
- 新規就農には、知識や技術のほか資金・土地(地縁)・経営ノウハウが重要
- 上記の要素を持つ耕種の農業法人による畜産への新規参入が軌道に乗っている好事例があり、こうした事例を後押しする仕組みが必要

(2) 課題

- 物価高騰により新規就農の初期費用が増大。畜産への参入が困難に
(農業資材R2→R6：124%)
- 就農後の経営力の確保のためには、生産にかかる支援体制の強化が必要



畜産への新規就農者の確保のため、

- ・ 高止まる初期費用への支援で農業法人等の畜産への新規参入を後押しすること
 - ・ 受精卵移植や素畜の供給など、畜産経営に必要な生産体制の整備
- を実施。

2 事業概要

(1) 新規参入初期投資支援 10,000千円

家畜の小規模飼養を開始するための施設等整備を支援

対象：主に耕種農業を営む農業法人、営農組織等

支援内容：簡易畜舎、給水器、牧柵、家畜(繁殖和牛・鶏)等

補助率：1/2以内(上限5,000千円)

(2) 生産体制の確保 10,000千円

①和牛受精卵の移植体制

- ・ 供卵用和牛、受精卵移植器等

②京地どり素びなの供給体制

- ・ 種鶏舎整備、肉用鶏舎整備、高性能ふ卵器導入等

3 事業のスケジュール

R8.4～ 事業説明・PR

R8.5～12 補助申請受付

R9.2 実績報告

4 見込まれる効果

- ・ 畜産の担い手増加(2経営体+雇用就業者6名)
→農林水産ビジョン目標：新規就業者数(畜産)年間12人の達成
- ・ 農業生産額の増加(+5,400千円~/年)